

# 東南アジアの自然と農業研究会

## 第71回研究会ご案内

木枯らしの吹く季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

残すところ僅かとなりました今年最後の研究会を下記のとおり開催いたしますのでご案内申し上げます。慌ただししい年の瀬とは存じますが、多数のご参加を心よりお待ちしております。

### 記

日 時 : 12月22日(金) 午後4時~午後6時  
会 場 : 東南アジア研究センター 東棟2階第一教室  
京都市左京区下阿達町46 川端通り荒神橋東詰め  
話題提供者 : 野淵 正 氏(京大農学部留学生室)  
話 題 : 「熱帯樹木研究の二三の試み」  
- Functional wood anatomy の観点から -

### (要旨)

熱帯林に関する研究は多くの研究者によりまた多方面からなされているが、熱帯林を構成する個々の樹木の体内で起こっている諸現象に関する研究がたちおくれしている。環境問題の観点からも、また資源問題の視点からも、個々の樹木に焦点を当て、その体内から情報を引き出すことは是非とも必要である。

本発表では樹木の示す種々の生理学的現象を、主として顕微鏡的手法を使って観察した結果を報告する。たとえばチーク。世界の代表的銘木チークについて、北タイの植林木を用いて、木部形成の季節的特徴や心材形成の特色について触れる。また、熱帯樹木は一般に明確な年輪構造を持たないとされている。従って温帯産の樹木のように年輪を介して過去の成長の記録を読み取ることが難しい。そこで、刺針法という方法を用い、フタバガキ科の樹木について、木部形成の周期性を追跡した試みについても報告する。この方法によれば、1年の中でどの時期にどれだけの木部が形成されたのかを読み取ることができる。またこの方法を詳細に検討すれば、熱帯樹木の1年単位の周期性を引き出せる可能性もある。環境問題の一つとして重要な地球温暖化問題は、樹木の側から見れば炭酸ガス固定すなわち木部形成量の問題に置き換えうる。刺針法による木部形成の周期性の追跡は従って、これらの問題にも関わった実験課題である。その他、沈香の形成、熱帯の代表的針葉樹であるアガチスの利用上の問題点などにも触れる予定である。

問い合わせ先：京都大学熱帯農学専攻

葉山 アツコ(Tel 075-753-6359)

京都大学東南アジア研究センター

山田 勇(Tel 075-753-7311)